

列車火災に繋がる高山本線、 燃料漏れについて業務委員会開催！

2月8日、名古屋地本は、平成29年12月20日に高山本線で発生した747Cの燃料漏れについて申し入れていた申第9号に対する業務委員会を開催しました。

最近、頻発に発生している車両故障に対し地本は効率化を追求しすぎたための弊害で有ると共に、全ての対策が乗務員にしわよせがきており安全・安定輸送の障害であると強く主張してきました。

【申し入れと回答】

J R 高山線 7 4 7 C における燃料の軽油漏れについて

2017年12月20日22時40分頃、高山線747C列車が坂祝駅で車両故障となり運転を取りやめた。この影響によりバスによる旅客救済が発生するなど大きな影響を与えた。

マスコミ等によると走行中に運転席台のエンジンの動作状態を示す表示灯が消えた。坂祝駅で点検したところ、床下の装置で、燃料の軽油が漏れているのが見つかった。最大200リットルの軽油が漏れた可能性があるとしている。

下記のとおり申し入れるので、早急に団体交渉もしくは、業務委員会を開催し誠意ある回答をすること。

記

1. 今回の事故についての全容(輸送障害・影響人員・事故の概要・沿線の施設や住民の方への被害の有無等)を明らかにすること。

【回答】平成29年12月20日(水)22時40分頃、高山本線747C列車が坂祝駅停車直前に機関表示灯が消灯したため坂祝駅に停車し係員による車両点検を行った。点検の結果車両床下で燃料の軽油が漏れていることを認めたため坂祝駅以降の運転を取り止めた。当該車両の移動及び線路点検のため岐阜から美濃太田駅間の上下線で運転を見合わせた。この影響により上下計2本の列車が全区間運休したほか下り3本が部分運休した。影響人員は約150名であった。尚、お客様のお怪我や沿線の被害はなかった。

2. 発生原因を明らかにすること。

【回答】燃料制御装置電磁弁取付部にひびが入り燃料が漏れたため。

3. 最近において同種の事象が発生している件数を明らかにすること。

【回答】燃料漏れによる列車影響事象は異物衝撃を含め平成27年度以降3件発生している。

4. 今後の再発防止策を明らかにすること。

【回答】暫定対策として電磁弁取付部の一斉点検を実施している。恒久対策としては当該部品の交換を実施している。

【主なやりとり】

組合：係員による車両点検と回答されたが車両区社員なのか。

会社：美濃太田車両区社員である。

組合：機関表示灯が消灯して、まず運転士が確認すると思うがどうだったのか。

会社：運転士が床下確認をして油漏れを発見し報告を受けて車両区社員が現場に向かった。

組合：漏れ始めた時期は判明しているのか。

会社：判明していない。3日前の検査では異常はなかった。

組合：燃料漏れの勢いはどうだったのか。

会社：ちょろちょろと漏れる程度と判断している。

組合：報道によると最大200リットル漏れたとされている。火気が有る箇所だと引火も考えられる。事態を真摯に受け止めるべきである。

会社：真摯に受け止めており対応している。

組合：何故、ひびが入ったのか判明しているのか。

会社：わからない。製造部品に問題があると推測している。

組合：製造会社は何処なのか。

会社：カミンズ製である。

組合：対策として当該部品の交換としているがどのような部品を何個交換するのか。

会社：電磁弁の台座を厚くして強度を上げた。個数は248個である。

組合：メーカーに損害、被害補償はさせるのか。

会社：把握していない。

組合：最近の事象では、メーカー製造段階での不具合で発生した発表している。しかし、物は壊れる物である。使い方もあるし、点検メンテナンスの仕方もある。メーカーのみの原因ではなく、社員が発見できる技術継承ができていないのも原因である。

会社：そういった認識はない。

組合：マニュアルを押しつけ、それ以上のことをすれば注意するでは真の意味での職人としての技術継承はできない。魂のこもった技術継承をするために組合と会社は議論してよりよい社風を構築していかなければならない。

以上